

大熊町社会教育複合施設のコンセプト

- ✓ 前回検討委員会意見も踏まえ、文言を修正

大熊で学ぶ

- ✓ 大熊町に関する資料や情報、人材等を集積し、来訪者が大熊を知り、共有し、自分たちの暮らしやまちに活かしていく学びと交流の拠点
- ✓ 大熊の歩みや現状を学ぶ
- ✓ 大熊で、大熊の人と学ぶ

大熊の記憶と記録をつなぐ

- ✓ ふるさと大熊に対する町民の思いを預かり、現在の町の町民、未来の町民をはじめ、町に関わる人たちにつなげていく拠点
- ✓ 町にゆかりのある人たちが思いを託す
- ✓ 未来の町民が土地のルーツを知り、つなぐ

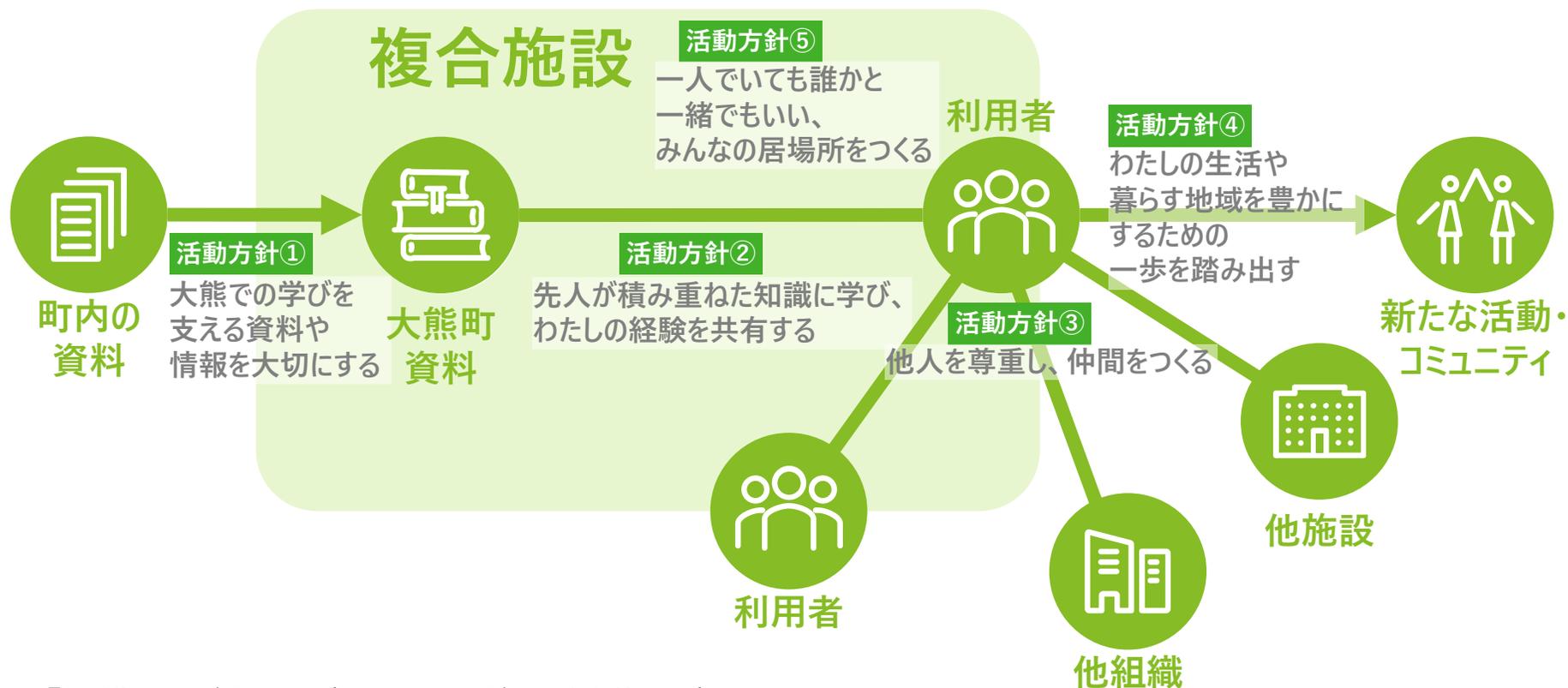
※補足

検討委に示した資料を下敷きに、WSで示した文言に修正しています。

(赤字)

施設の活動方針

- ✓ コンセプトを達成するため、必要なことを利用者目線で設定



※「協働員」(職員・ボランティア等)の活動及び適切なシステムの導入によりこれらの重点施策を実現していく

施設の活動方針

✓ 各活動方針では以下の内容を意図している。

大熊での学びを支える資料や情報を大切にする

活動方針

①

大熊町を知る上で欠かせない資料を施設に蓄積し、専門的な研究を加えながら発信することで、町独自の学びを支える。町に関わる方々が日々直面する疑問や課題に関連する多様な資料がそろうことで、自分の日常生活に即した多様な学びの土台をつくる。

先人が積み重ねた知識に学び、わたしの経験を共有する

活動方針

②

施設に集積される情報、知識などの資料群に出会い、自分の関心や興味を探求する。さらに自らの関心の外にある資料と出会うことで、それぞれの世界を広げる。また、自分の中にある知識や経験を共有することで利用側が一方的な情報の受け手ではなく、館の成長を促す存在となる。

他人を尊重し、仲間をつくる

活動方針

③

同じ関心を持つ人、自分とは異なる考えを持つ人と出会い、対話することで、自分の関心や興味をさらに探求する。人や外とつながることで多様性を知り、協働の面白さを知る。同じ趣味、関心や、大熊という場所を介した知人、仲間をつくる。

施設の活動方針

✓ 各活動方針では以下の内容を意図している。

活動方針

④

わたしの生活や暮らす地域を豊かにするための一歩を踏み出す

資料や人とのつながりを、日常生活での疑問や課題の解決、楽しみの増幅に活かす。暮らしたい町、地域をつくるためにどうしたらいいかを自分で考え、館の内外で実践する。実践しようとする人を応援する。

活動方針

⑤

一人でいても誰かと一緒でもいい、みんなの居場所をつくる

どんな人でも「受け入れられている」「安心できる」と感じられる町にする。施設は学校や職場、家と違うサードプレイス（第3の居場所）として機能し、居場所がない、居場所がほしいと感じている人のセーフティネットになる。

対象

大熊町に関わるすべての人

原発事故による全町避難後、町民は町との関わりや住んでいる場所によって「分類」されがちだった。分けることは、ほかとの違いを明確にすることであり、時に分断を誘う。この施設は、居住地や住民票の有無にかかわらず、「大熊」という共通の関心ごとを持つすべての人を対象とし、その学びを支えることを目指す。